

令和6年度第1回八代市社会教育委員会議 会議録

令和6年10月24日（木）14時00分～

会場：八代市公民館 会議室AB

出席委員 生田委員、三栗野委員、徳田委員、松本（卓）委員、高倉委員、山本委員、
薄田委員、押方委員
欠席委員 林委員、松本（啓）委員、寺尾委員、岩本委員
事務局 泉課長、米村課長補佐兼社会教育係長、西村生涯学習推進係長、右谷主査、
宮地参事、田島参事、小林主事、木本社会教育指導員、小原社会教育指導員

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 議事

(1) 令和7年度八代市社会教育団体補助金予算（案）について

社会教育団体3団体が、それぞれの令和7年度活動計画及び補助金予算案について説明があり、その後質疑。

①八代市地域婦人会連絡協議会

【質疑応答・意見】（抜粋）

（委員）今現在婦人会は何校区あるか。

（婦人会）昨年と同じで7校区。

（委員）素晴らしい趣旨のもとに活動していらっしゃるが、増える可能性はあるか。

（婦人会）努力はしているが、70歳代の方で働いている方がたくさんいて、婦人会に入らない人が多い。しかし、40代、50代の方を入れるように努力はしていて、1年に1人2人は入ってもらうようにしている。

（婦人会）1度脱退したところが復活するのは難しい。色々声はかけている。

（婦人会）校区を増やすのは難しい。今あるところを存続させるために、活動内容を校区の新聞に載せて、一般の方にお知らせするような試みをやっている。

（委員）町内にとっては、消防団と婦人会はなくてはならない存在。火事があった際に炊き出しを婦人会にお願いしたら、よくしていただいた。そういう教訓

もある。

- (委員) 役をしないといけないから嫌という方もいる。皆さんの校区ではすんなり役は決まるのか。
- (婦人会) 役を決めるのは難航する。役を試してみればどなたでも自分のやり方でできる。役をしていただくよう、説得することは効果がある。
- (婦人会) ある人は「こんなに楽しかったんですね。もう少し早くから入ればよかった。」と言っていた。人を集める時も意外と集まるし、皆さん手伝ってくれる。
- (婦人会) みんな楽しくやっているが、若い人たちがおらず、なかなか代わり手が見つからない。校区としては、小学校のプールの手伝いや、町探検についていくなどの手伝いに行っているが、町内長たちはなかなか手伝いに来られず、婦人会と民生委員とでやっている。子どもたちも覚えてくれて私としては楽しいが、代わり手を見つけるのは難しい状態。
- (委員) 各校区なくてはならない団体なので、後継者を見つけるのは難しいと思うが、今までやってこられた成果を引き続きお願いしたいと思う。
- (委員) 常に会議で出てくるのが消防団への加入だが、なかなか人が集まらない。高齢者が色んなことをやっている状況で、60代、70代の人たちも働いているというのが現状。しかし、誰かがしなくてはならない。みんなで協力するという風に持っていき、助け合うことが大事なのではないかと思う。
- (委員) ぜひ行政の方からも色々な形で後押ししてほしい。

②八代市子ども会連合会

【質疑応答・意見】(抜粋)

- (委員) 例年、どれくらい市の子ども会大会に参加しているのか。
- (子ども会) 大体年間80名ぐらい。それに親御さんが来られるので大体100名ぐらいが来られる。
- (委員) 各子供会いろいろな活動をやっているが、市の子ども会主催の大会が開催されると子供たちが一堂に会し、いろいろな活動ができるのでぜひ続けてもらいたい。以前、各子供会の発表など企画されていたため、そちらの方もぜひお願いしたい。
- (委員) 安全会共済費が令和7年度から100円アップした根拠は。
- (子ども会) 県の予算がひっ迫しており、100円あげないと令和7年度の事業ができない。
- (委員) ジュニアリーダー研修会と育成者研修会の内容は。
- (子ども会) ジュニアリーダーは県の事業。
- (委員) 大体何名ぐらい派遣されるのか。
- (子ども会) 八代地区では、リーダーとしての認定をされている子どもが1人。あとは、

各地域でサポーターというような形でやっている。今募集のチラシを作っていて、10名くらい募集したい。育成者の方は各子供会の会長さんを集め、学識経験者をお呼びして研修をしている。

- (委員) SNSを通じて犯罪が低年齢化している。連合会としてはどのような心境か。
- (子ども会) 前回の研修は福岡の方に来てもらい、「こういうことが危ない」という研修をした。なんとか食い止めていこうと思えば行動はやっている。子どもたちは八代の宝であり、今関わっていかないと終わってしまう。
- (子ども会) 補足すると、各子供会の会長に集まっていたら、福岡の方に「子供とメディア」という話題で、メディアに子どもたちが巻き込まれているという研修をした。
- (委員) 会費を払ってまでは、という団体もあるので、メリットを伝えていく必要がある。

③八代市PTA連絡協議会

【質疑応答・意見】

- (委員) 現在、全国的にPTAの会員の減少化が進んでいるが、八代市はどうか。
- (PTA) 今年度は某小学校が市PTAを脱退した。役員のみ手不足や、コロナ渦で事業を行えなかったため、しなくても学校生活に困りはないだろう、ということが原因。まずは、自分たちの学校をより良くしようということで、上層部からの脱退を決意された。
- (委員) また市PTAに戻ってくるのか。
- (PTA) また戻りたいということであれば。
- (委員) 闇バイトの事件がある。子どもたちが簡単にバイトを検索する可能性もある。できるだけそういう研修をしてほしい。
- (委員) 会費は必要か。
- (PTA) 長子のみ年間240円必要。
- (委員) 県P連はいくらか。
- (PTA) 260円。合わせて500円必要。
- (事務局) 某小学校が脱退したことにより、計上してある補助経費の変化はあるか。
- (PTA) ない。
- (事務局) 某小学校が減少したが、補助の対象については、某小学校にいくらという形での補助はないので、そのまま補助対象となる。

(2) 令和6年度地域学校協働活動について

事務局より説明。

【質疑応答・意見】

- (委員) 学校運営協議会とは違うのか。
- (事務局) 違う。
- (委員) 学校によっては、地域学校協働活動のメンバーと学校運営協議会のメンバーが一緒になって、合同で開催されているところがあると思う。お互い連携してやっている。
- (委員) 今年度から他校が取り組んでいるのを参考にして、不登校支援サポートを始めた。個人情報等もある程度知っておかないと子どもに声掛けができないため、学校運営協議会の委員の方の中で女性3名の方に毎週水曜日の4時間目に来てもらって、まずは話し相手を、という形でやっている。
7月の学校訪問の際に、予算の追加の要望をし、小学校には予算の増額があったが、中学校はなかった。
- (事務局) 要望はなかった。
- (委員) 小中学校一緒に話し、その場で実際に話していた。
- (事務局) その後の調査で具体的にいくら必要かお尋ねしたところ、追加要望はなかった。
- (委員) 今年からのスタートで、うまくいくかどうかわからない。この状態でいくと定期的に開催していければ、と思っている。どうしてもボランティアで地域の方をお呼びするのは学校長としては非常に心苦しい。「お金はいりません」と言って来てくださる方ばかりだが、そういう訳にはいかない。
- (委員) コロナ禍があげ、各学校で活動が盛んになり、人材、予算不足と伺ったが、単独市予算なのか、国からどれくらいの補助経費がついているのか、そして、規模や今後県の方から削減される予定でやっていくのか、そういった将来の見込みも含めて教えていただきたい。
- (事務局) 補助対象経費に対して3分の2が国県補助金。今後の予算の方向は、令和9年度までは今の補助金が継続するだろうとのこと。金額に関しても前年並み、もしくは1割減があるかもしれない、と聞いている。
- (委員) その後については、これから検討していくのか。
- (事務局) 令和10年度になるとどうなるかわからないが、この活動というのは非常に重要な活動であるという風には認識はしている。なかなかボランティアでは、というところもあるが、ゆくゆくはボランティアという方向に動かさざるを得ないのではないかと思っている。この活動が、いかに意義があるものなのかというのを普及していかなければいけない。そのためには、補助金がなくてもやっていくというようなところもあるし、市の財源として、またその部分も確保していかなければいけない部分もあるかと思うので、そういったものを今後検討していきたいという風に考えている。

- (委員) 色んな活動をやっているが、市民の方々に対する紹介が弱い。意義ある活動だということを、市が後押ししながら広報をしていくともっとよくなると思う。
- (事務局) 周知を、とのことだが、広報やつしろのコミセンだよりで広報している。今後は、市のホームページへの掲載を計画している。今日、文政小学校で地域学校協働活動の一環として開催された「文政っ子夢セミナー」が某ローカル局で取り上げられる。そちらも見ていただければと思う。
- (委員) ボランティアとのことだが、現場を預かっている者としてとても危険であると受け止める。本校も市 PTA からの脱退を考えている。1年間かけてメリット、デメリットを出し合って、今年度末の総会で決める。PTA 活動もある意味ボランティアで、会議など夜ある場合はあるかもしれないが、日中仕事を休んでいかないといけない。ボランティアであれば、ますます参加をしなくなる。当然、市 PTA から脱退すると言っても、学校の中の活動は継続。ただ、自分たちの子供たちのために活動していこう、その時にお金を有意義に使おうと。他の学校も実はそういう動きがあるというのも聞いているが、それがどうなるかはわからない。
- (委員) そういう話は波及していく。
- (委員) 地域学校協働活動も文科省からおりてきて、国の補助があってやってくださいという形で、ある意味行政主導で入ってきたところもあって、学校の中でも担当を決めて地域の方と連携をしながら、というところではやっているが、予算があるからそれを生かして使おうとしているが、今の話を聞いて、どんどん削減されて、ゆくゆくはボランティアでということになれば、私たちからすると本当に必要なことなのかどうか。結局 教員の負担は何も変わらない。でも、ボランティアでやってくださいということであれば、正直、現場としては働き方改革がどうしても切っては切れないところがあるので、それを考えると、するかどうか1から見直しをしていく形になる。
- (事務局) ボランティアになると非常に活動が難しくなるというのは十分認識している。ゆくゆくはボランティアというのも1つの方向。市の補助を100%にするなど、それも今後の検討ということになる。ただ、いかに活動を充実させて活発化させて、絶対これは必要ですよというような形を取っていただければ、補助金は取りやすいと考えている。
- (委員) 某小学校の協働活動は婦人会がメインにやる。地域コーディネーターも婦人会。メンバーを LINE で登録し、行ける人はいないか連絡をするが、もう少し早く学校が言ってくださるといいなと思いつつも、それでも登録した人が手を挙げて参加させてもらっていて、交通費をいただい

る。でも、婦人会ありき。働いてる人ばかりで、会議も夜する。楽しい思いはしているが、いつまで婦人会が協力してくれるか、という思いがある。

(委員) 今まで本当に頑張っているコーディネーターの方がいらっしゃって、そのルートでたくさん来てくださってるが、その方々が今後5年、10年後、同じ働きをしてもらえるかと、とても心配をしている。今の保護者の代は、校区から出られてる方も多かったり、ちょっと協力的ではなかったりっていうところもいらっしゃる。

(委員) 学校支援は60代から70代になる。若い人たちは働いているから、学校支援にはなかなか来れない。今はいいけど続くか心配している。

(3) 令和7年度予算要求に向けて

事務局各担当より説明。

今年度の予算の内容について説明し、その後、来年度の予算について協議。

【質疑応答・意見】

(委員) 特にこのことは継続して力を入れていきたい、という事業はあるか。

(事務局) 学校、家庭、地域の連携協力推進事業は、絶対予算を獲得しようという意気込みで臨んでいきたい。コロナ禍の前の活動に戻ってきているので、重点的に財政当局の方にも説明して予算を獲得していきたい。

(事務局) リカレント教育、デジタル系の講座は、市の重点事業となっているので、引き続き今年度並みの予算を獲得したい。

4. その他

説明：事務局

- ・社教連会報について
- ・第2回社会教育委員会議の日程について
- ・令和6年度第54回九州ブロック社会教育研究大会鹿児島大会について

5. 閉会